

金成マツ筆録ノートのアイヌ語口承文学テキストの原文対訳及び解釈
——金田一京助宛ノート散文説話「金の煙草入れ (konkani tampakop)」——

藤田 護

キーワード アイヌ口承文学、散文説話、村造りのカムイ、金成マツ、金田一京助

1. はじめに

本稿では、以前公刊した「六人の山子 (iwan yamanko)」(藤田 2018) に引き続き、金成マツ筆録ノートの口承文学テキストの翻刻、現代表記、および原文対訳を公刊する。これによって、金成マツ (イメカヌ) 氏が伝承した豊かなアイヌ語口承文学の世界を少しでも手の届くものと思いたいと思う。

前稿でとりあげた散文説話は、金成マツが甥の知里真志保に宛てたノートの中の一編であり、伝承者が記されていないことから母である金成モナシノウク氏による伝承であろうと考えられる。知里真志保宛ノートには、多くの散文説話が記録されていることが知られており、それを公刊しようとする取り組みが、これまで蓮池悦子氏、および白老楽しく・やさしいアイヌ語教室によって、なされてきている¹。しかし、英雄叙事詩が主に記録された金田一京助宛ノートにおいても、その合間に何編かの散文説話が記録されている。本稿では、その金田一宛ノートに金成マツが筆録した散文説話の一つをとりあげる。筆録年月日は、1934年(昭和9年)5月8日と記されているが、伝承者の氏名は記録されておらず、他の場合と同様であれば、これも母金成モナシノウク氏からの伝承であるということになる。翻刻に当たっては、北海道立図書館北方資料室(当時)に所蔵され、一般公開されているマイクロフィルム資料を参照した(『金成マツ筆録ユーカラ・ノート[マイクロ資料]11』、請求記号M/415)。

この金成マツ筆録ノートについて、これまでに作成された最も詳しい目録は蓮池悦子氏によるものである(白老楽しく・やさしいアイヌ語教室 2009、pp.22-48)。しかしながら、

¹ 蓮池悦子氏は、金成マツ氏が金成アシリロ氏から伝承し、筆録した散文説話の訳注と公刊に尽力した。その目録は白老楽しく・やさしいアイヌ語教室(2017)にまとめられている。また、金成マツ氏が盤木アシンナン氏から伝承し、筆録した散文説話は、白老楽しく・やさしいアイヌ語教室(2020)で翻刻と日本語訳がなされたが、こちらにはアイヌ語の現代表記が伴っていない。

なお、北海道教育委員会から『知里真志保フィールドノート』として刊行されたものの中にも、知里真志保宛金成マツ筆録ノートの内容と重なる物語が確認できる。筆者が手元で確認できるところでも、『知里真志保フィールドノート(4)』(北海道教育委員会編 2005)の1.1から1.4の物語は、北海道立図書館所蔵『知里ノート[26]』(請求記号:A.92/C/26)の冒頭4編の物語と題名が一致し、また1.2についてはアイヌ語原文が一致していることも確認できた。同『フィールドノート』に両者の資料を対応付けるような記述はなく、この内容の照らし合わせも今後の課題であろう。

今回とりあげる物語テキストは、その目録の中に記載されていない。同目録における金田一宛のノート最後の項目 92.の後ろに（同、pp.34-35）、実はもう一編物語が残っており、それがこの物語である。北海道立図書館のオンライン蔵書検索においても、書誌詳細の項目からこの物語が抜けており、抜け落ちが連動し続けてきたのではないかと推察される。

筆者がこれまでに確認できている範囲において、金成マツ筆録ノートのうちで金田一京助に宛てられたものの中には、以下の散文説話が収められている。なお、そのうちの幾つかは萱野茂氏の『炎の馬』に日本語で物語が収められており（萱野 1998）、それらについては該当する話の題名と頁数を記す――

- ノート² Esokisoki uwepeker きつつきの昔話 1929（昭和4年）4月①②³
 ノート 11 Esaman ushinere uwepeker 川瀬のばける昔話 1929（昭和4年）6月？③
 （『炎の馬』「カワウソが人間に化けた話」 pp.15-24）
 ノート 11 Yuk matnekor wen ainu 鹿を妻にもつ貧しき男の話
 1929（昭和4年）6月？④
 （『炎の馬』「シカを妻にした男」 pp.25-33）
 ノート 11 Upash chironnup 雪狐 1929（昭和4年）6月？⑤
 （『炎の馬』「オオカミを助けた白ギツネ」 pp.71-82）
 ノート 42 Shine esukopitche retar chima koeyanrashne menoko moshirpa wano ek uwepeker
 一人の白いかさぶたのある女が東の方から来る昔話 1931年（昭和6年）8月7日⑥
 （『炎の馬』「かさぶたの女神」 pp.89-99）
 ノート 42 Panampe uwepeker パナンペの昔話 1931年（昭和6年）8月7日⑦
 ノート 48 Esaman kamui matnepo toho newa Urashpetun kat-kemat toho utasare uwepeker
 川瀬の神の妹の乳とウラシペツ姫の乳と替える昔話 1931年（昭和6年）？⑧
 ノート 31 Ekimne ikor newa uimam ikor uwepeker 山行きの宝・船出の宝の昔話
 伝承者記述なし
 金成マツ筆録 1935年（昭和10年）12月23日⁴ ⑨
 ノート 33 Konkani tampakop 金のタバコ入れ
 「明治35年頃日高郡平取村の老婦人」伝承 ⑩
 金成マツ筆録 1934年（昭和9年）5月8日
 ノート 34?⁵ Kunne kirai retara kirai emko 黒い櫛、白い櫛の中ほど？
 豊年ヤイコレカ伝承 1945年（昭和20年）5月1日
 金成マツ筆録 1945年（昭和20年）8月27日 ⑪
 ノート 34? Uwepekere（これ以外の題名なし）
 知里プイヌマツ伝承 金成マツ筆録 1945年（昭和20年）8月28日 ⑫

² ノート番号は、二風谷アイヌ文化資料館所蔵ノートの整理番号。

³ この「きつつきの昔話」には短い二つの話がそこに収められており、ここでは二つと数えることにする。

⁴ 北海道立図書館のマイクロフィルムの整理記録では筆録年月日が「昭和11年3月1日」となっている。ここでは物語本文末尾の記述を優先した。

⁵ この物語と下の「Uwepekere」は、冒頭に題名のない「Yukara」とともに同一のノートに入っているが、蓮池悦子氏による目録にはこのノートが含まれていない。筆録の年月日からして、ノート35の直前に位置するようである。

ノート 35 Aekirushi chironnup ishinere uwepeker 狐が私のふりをする昔話

知里プイヌマツ伝承 金成マツ筆録 1947年(昭和22年)6月20日 ⑬

これに基づく、金田一京助宛ノートには、散文説話が13編収められていることになる。これだけでも一定のまとまった数であり、

本稿でとりあげる物語については、2017年度の千葉大学アイヌ語研究会において、筆者が作成した原文翻刻と現代表記・日本語訳を、共同で検討する場を得た。その場で多くの貴重な知見を得た。しかし、依然としてありうべき間違いについては、全て筆者に帰せられるべきものであることを、念のため記しておく。

2. 梗概

(主人公すなわち叙述者はウラシペツの若い村長である。)

私は本当の長者で、猟がうまく、器量がよく、口も達者で度胸もある。妻も、働き者で、器量もよく、器用である。私はまだ若い、名声が立っている。

ある日のこと、日が暮れると、村中の犬が村の背後の林の中に集まり、うるさく吠えだす。妻も、他の村人たちも気味悪がって、うろたえている。私にも、どういうことなのかさっぱり分からない。翌朝様子を見に行くことにして寝るが、日が上ると鳴き声は止み、犬たちの足跡しか残っていない。村人たちも妻も、日中から戸を閉ざし、窓を閉めて、仕事をしなくなってしまい、そのような状況が続く。

私は、犬のふりをすれば、それが何かを見ることができないのではないかと思い、真夜中に起きて、妻が寝ている間に家を出て、林の中へと向かい、四つん這いになって犬の中に入る。犬たちが見ている方を自分でも見ると、高いエゾ松の梢に赤くきらめく物がある。私はいったん家に戻り、夜が明けた後で、妻が料理をしている間に他のことをしているふりをして、エゾマツの木のところに戻る。私は木登りに自信があるので、遙か梢まで上っていくと、日の光のように眩しい光を放つ物がある。そこには、なんと銀と金で作られた大きな煙草入れが、金のキセルがそこに付いて、引っかかっている。私はそれを取り、家に戻り、火のカムイのおばあさんに、事の次第を話して聞かせる。夜になっても犬たちは吠えず、村中が穏やかに眠り、人々は再び自分たちの仕事をし始めるようになる。

ある晩、私の枕上に金の小袖を重ね着した、黒髪に白髪と同じくらい混ざったカムイがいて、私に向かって次のように述べる——「私はこの家を守るカムイ(チセコロカムイ)です。最初は私も犬が吠えているのを気に留めていなかったのですが、火のカムイのおばあさんに事の次第を聞かせられ、見てみました。すると、大昔に村造りのカムイ(コタンカラカムイ)がアイヌの村を造り終え、天に戻った際に、自分の煙草入れを忘れてきたことに気づいたのです。そう簡単に忘れ物を取りに戻ってよい存在でもない、心の良いアイヌに贈ろうと考え、念じて木の梢に引っ掛けたのでした。しかし、誰も気づ

かないので、犬たちに吠えさせたのですが、今度は人間たちが怖がってしまい、何もなくなってしまいました。村造りのカムイは、これをおかしがっていましたが、あなたはとても利口で、カムイも感心しています。これからこの煙草入れがあなたを守護し、酒宴でも狩猟でも交易でも、あなたはたいへんな長者となるでしょう」と述べる。

私は目ざめて、酒宴を催して、その場で皆にこのことを話して聞かせると、村人たちも妻もたいへん喜ぶ。私はたいへんな長者となり、たくさんの子をもち、村人たちに大事にされ、年をとってからは子どもたちに面倒を見てもらい、大往生するところなので、この話を聞かせるのだ。

と、ウラシペツの真の長者が語る。

3. 物語についての考察

この物語は、村造りのカムイが自分の煙草入れを人間の世界に忘れてしまったことが、人間たちを苦しませ、村に難題をもたらす発端となっている。この村造りのカムイと煙草とのつながりには、何か特別なものがあるようであり、散文説話でもパナンペ・ペナンペ譚と呼ばれるジャンルにおいて、近いモチーフが展開する物語が幾つか見つかる。

平取・荷負本村の木村まっとうたん氏が語り、萱野茂氏が記録し、現在のところ日本語でだけ刊行されている物語の途中に、以下のような説明がある。国造りの神（モシリカラカムイ）が、人間の世界で国造りの仕事をしながら煙草を吸い、その吸い殻の白い部分がパナンペとペナンペという人間になり、吸い殻の黒い部分がクマになった、すなわち、パナンペとペナンペと、クマとが義兄弟なのだ、ということ黒ギツネの翁のカムイが語る（「パナンペとペナンペ」萱野 2020[1988]、p.504）。また静内の織田ステノ氏が語り、白老のアイヌ民族博物館のアイヌ語アーカイブで公開されている物語では、人間の世界で村造りを終えた村造りのカムイが、煙草を二服のみ、一服ずつ東と西に捨てた灰が、そのまま腐って土になるともったいないので、パナウンペとペナウンペになったになったのだという（「パナウンペとハルニレの木」C0023（織田 1980）および C0034（織田 1981）：それぞれ同じ話の別録音）。

これらはいずれも、パナンペにいいことがあり、それをペナンペが真似ようとして失敗するという、典型的なパナンペ・ペナンペ譚の形式からは外れていることが興味深い。木村まっとうたん氏の物語においては、ペナンペが熊を捕ってもカムイとして敬って送らないために、怒ったクマが間違えてパナンペの方を殺そうとし、それに気づいた黒ギツネのカムイがパナンペに事情を説明し、パナンペがペナンペを諭すことで、二人で熊を敬いながら豊かな暮らしを送るようになる。織田ステノ氏の物語においては、パナウンペとペナウンペが自らの素性を知らず、道具を使わずに「げんこつ」だけで動物を捕っていることに、熊のカムイが怒り、二人を殺そうとするが、逆にハルニレのカムイが熊に罰を与えて殺し、二人に上

述の由来譚を語り、人間らしく暮らす方法を教える。それぞれの話で、どちらかというとなナ(ウ)ンペよりもペナ(ウ)ンペの方が割を食っているので、このタイプの物語の形式を満たしているようでもあるが、しかし、むしろ両人の由来が起源譚として与えられ、カムイとの関係を再構築し、人間らしい暮らしを営むようになるという点で、他のパンンペ・ペナンペ以外の者を主人公とする散文説話と共通する点が多い。

どういうわけだか、村造りのカムイあるいは国造りのカムイと呼ばれるカムイは、煙草がたいへん好きなのだ。そして、煙草が好きだけではない。非常に位の重いカムイであるので、本稿の物語での犬の集団のように、他のカムイを容易に使うことができ、また人間の世界における物も簡単に動かしてしまう。そして、自ら人間に対峙して、人間との交渉で問題の解決に当たることはなく、常に他の、これまた重要なカムイたちが、村造り・国造りのカムイの意向を受けて、人間の前に姿を現す。これは、本稿のこの物語における時間のあり方にも関係する。村造りのカムイが村を造ったのは遙か昔のことと物語では語られるが、しかし同時に、この村造りのカムイは、犬を操り、今の村人たちや主人公の様子を知り、それをおかしがっている。すなわち、村造りのカムイの人間からの関係という意味での遠さが、時間としての前あるいは昔へと重ね合わされているかのようなのである。そして同時に、(この場合は煙草入れの)起源譚も、常に話の中の「いま」において、その「いま」の問題に対処し、応答しようとするなかで、形成されていくものであるらしいことが伺える。

また、金の煙草入れについては、別のつながりも存在する。大谷(2016)は、村にやってくるトパットウミ(夜盗)を河童(ミントウチ)のカムイが全滅させてくれる、という上田トシ氏が語った散文説話を紹介しているが、その類話として紹介している、更科源蔵・安藤三紀夫(1977)『北海道の伝説』(日本の伝説17、角川書店)に収められた物語においては、その河童のカムイが村の魔除けの道具として金の煙草入れを渡すのだという(大谷2016、p.59)。本稿の物語で出てくる金の煙草入れとは、用途として若干異なるが、しかしながら超強力な道具であり、かつ、村造り・国造りのカムイや河童のカムイのような、正体が判然としないが超強力なカムイから手渡されるものである、という点は共通している。

本稿でとりあげる物語の展開は、それ自体は比較的オーソドックスなものと言えそうだ。村に問題が起こり、その問題を解決するにあたって、主人公の人間的資質が発揮されるとともに、カムイの助力を得つつ、カムイとの関係を新たに構築していく。そして、それによって主人公に、物質的にも社会的にも人間的にもさらに豊かな暮らしが実現する。このような展開は、散文説話のストレートでシンプルな形であり、典型的な型であると言えよう。

しかし、同時に場面場面で発揮される描写力の豊かさも、特筆すべきであろう。犬たちが吠え始めた後の村人たちの困惑する様子、犬たちの興奮している様子、村造りのカムイの性格描写、そして村人たちが主人公のウラシベツの村長に話しかける言葉など、読んでいて楽しくなる描写が随所に現われる。筆者は沙流方言の川上まつ子氏の散文説話の語りにおける描写力の豊かに常々感銘をうけてきたが、金成マツ氏が筆録した散文説話における表現の豊かさも尽きせぬ魅力をもっている。

また、アイヌ語の表現の面でもう一つ特徴として挙げられるのは、英雄叙事詩との表現の共通性である。以下においては、『ユーカラ集』などでの参考になりそうな表現を脚注で挙げたが、金成マツ氏の筆録資料の場合は、散文説話と英雄叙事詩との間で共通する表現が確実に多い。金田一京助宛ノートについては、当初金田一からノートの右側を空けて筆録するように指示された金成マツが、英雄叙事詩でいうところの1.5行くらいを書いていき、それが徐々に1行に収斂していく過程が当初見られ、その後でノートの全面にわたって筆録するようになる、という推移を蓮池（1997）が指摘している。実は、英雄叙事詩でみられるこのような形式の推移を、その合間に記された散文説話も同様に辿っている。散文説話が英雄叙事詩同様に句の長さを意識して筆録されている点も表現の面から興味深い。本稿でとりあげるこの物語のようにノートの全面に書かれるようになった後でも、英雄叙事詩と共通の表現が多く使われるという点も、金成マツ氏の表現の特徴を考察していく際に重要な着眼点となりそうだ。これまでのところ、1.5行～1行で書いている段階においては、複数行に渡るような定型句をも含めて英雄叙事詩との共通の表現が多い。そして、ノートの前面に書かれるようになると、共通なのは語彙の面に絞られるようになり、むしろ上述した散文説話としての表現の豊かさが前面に出てくる印象がある。しかし、これはもう少しテキストの集積と分析が進んだ後、あらためてとりあげるべき課題となりそうだ。

4. 原文翻刻、現代表記、および対訳

前稿（藤田 2018）においては、ノートのそれぞれのページについて、アイヌ語と日本語訳をそれぞれ別にまとめて記載する形式を採用した。これはアイヌ語の原文をまとめて読める方がよいのではないかという意図にもとづくものであったが、やはりこれは後々の記録としての整理上は、扱いにくいかもしれない。そこで、本稿においては、アイヌ語の原文一行に対して対応する日本語訳をその下に配置し、そこに（原ノートとは異なる）行番号を付すこととした。また、【現代表記・日本語訳】の項目では、ページの境界に位置し、前または後ろの単語と付けた方が分かり易くなると判断したものは、分かり易さを優先し、ページを前後させたものがある。さらには、直接話法で示される会話文は、アイヌ語ではダブルクォーテーション、日本語では鍵括弧で示したが、これに加えて、範囲が明確に確定できる心内語については、アイヌ語日本語ともに<>を用いて示した。

注釈において参照している文献は、【 】を用いた略記号で示した。それぞれの文献の詳細は、末尾の参考文献の欄で示す。

p.287

【原文翻刻】

1 shino Nishpa anewa shino katke- / 2 mat Ahekote wa eashka uwe / 3 pirika an Ekimne anko tup / 4 shumau kor an rep shumau / 5 kor an Akor katkemat toitako / 6 tubu ebuni rebu ebuni shino / 7 haru kar yuptek usa shiretok / 8 kor usa ashkai Aokai neyakka / 9 eashka shiretok kor an usa Ison / 10 usa ashkai an sonno Ainu / 11 kasu no yuptek kuru ane / 12 usa wayashnu an usa rame- / 13 tok kor an naa hekachi okkaipo / 14 Ane koroka shiasur ashte an / 15 kor okai an awa shine antowa

【現代表記・日本語訳】

- 28701 sino nispa a=ne wa sino katkemat a=hekote wa easka uepirka=an.
私は本当の長者で、本当の淑女を妻として、幸せに暮らしている。
- 28702 ekimne=an ko tup sumawkor=an rep sumawkor=an.
私は山へ入ると二つの獲物を獲り、三つの獲物を捕る。
- 28703 a=kor katkemat toyta ko tu pu epuni re pu epuni sino harukar.
私の妻は畑を耕し、それで二つの蔵、三つの蔵を立て、沢山の食料を手に入れる。
- 28704 yuptek usa⁶ siretokkor usa askay⁷.
[妻は] 働き者で、器量もよく、器用である。
- 28705 aokay ne yakka easka siretokkor=an usa ison⁸ usa askay=an.
私の方も、容貌もよく、猟もうまく、器用である。
- 28706 sonno aynu kasuno yuptekkur a=ne usa wayasnu=an⁹ usa rametokkor=an.
本当に私は他の人よりも働き者で、口が達者で度胸もある。
- 28707 naa hekaci okkaypo¹⁰ a=ne korka siasuraste=an kor okay=an awa
まだ私は年が若かったが、評判が立って暮らしていたところ、

p.288

【原文翻刻】

16 no tane shiri onuman / 17 aike orowano kotan oshmakun / 18 nitai tumun seta mik awa / 19 orowano kotan noshki ta Akor / 20 seta utar neyakka Ison kur / 21 Ane kusu tu seta reseta Ako- / 22 ison awa nei okaibe neyakka / 23 too kotanba wa kotan keshwa / 24 Inneno seta uwe karpa hine / 25 orowano mik rok mik rok / 26 Autari utar neyakka shino / 27 Ison utar tu seta reseta bak / 28 no koisombap ne kusu tan / 29 boro kotan orun seta

⁶ ここでは usa が、人の資質を表す表現が3つ連ねられる際に、その1つ目と2つ目のあいだ、そして2つ目と3つ目の間に使われる、という形式が繰り返されている。

⁷ askay: 上手である、手先が器用である【沙流方言辞典】p.28); adj. able, clever, adroit, capable【バチェラー辞典】p.56。

⁸ 人称接辞が付いて ison=an または isonkur a=ne などとなるところではないかとも思われるが、付いていない。

⁹ wayasnu については、【沙流方言辞典】が「口が達者だ」(p.825)としており、【久保寺辞典稿】(wayashnu)は「明敏なる、穎悟の、穎智の、一を聞いて十を知る程に賢しこい」(p.368)とし、【萱野辞典】は「賢い、利口だ」と両者の中間ほどにある(p.481)。おそらくここでは、その両方の性質がきいているであろうと判断している。

¹⁰ 【沙流方言辞典】によれば、14, 5歳までは hekaci が使えるようである(p.179)。ただし hekaci okkaypo という用例は他に見つからず、具体的にどれくらいの年齢を指して用いられるのかが不明である。hekaci の指す範囲をそのまま受け取るとすると、主人公は少年だがすでに結婚しているという設定になる。

hembak / 30 wan hotne seta humnani / 31 kouwe karpa wa mikpa hawe / 32 nenankora tane eashiri inne / 33 seta hau tan boro kotan kurka- / 34 shike bebuni tara sonno kisar / 35 buika asak kane nitai rabok / 36 eiyonimpa moshiri kuttom / 37 koturimimse kane eashka wen / 38 Iyoyamokte aki Akor katkemat / 39 neyakka shino iyoyamoktepa / 40 rabokita Autari utar eashka / 41 uhomatpare hine Iotta arki / 42 wa ene uhautaroise inkar kusu / 43 kotan kor uben Nishpa nekon / 44 nehawe taban tane kuran / 45 tap ene shiri-kunne anchi / 46 kar ebekano kotan koehankeno / 47 Nitai chorbok un tapkorachi kotan /

【現代表記・日本語訳】

- 28801 sine an to wano no tane siri onuman¹¹ ayke
ある日から、日が暮れると、
- 28802 orowano kotan osmak un nitay tum un seta mik awa
村の背後の林の中で犬が吠え、
- 28803 orowano kotan noski ta a=kor seta utar ne yakka,
すると村の真ん中で私の犬たちも、
- 28804 isonkur a=ne kusu tu seta re seta a=koyson¹² awa
私は狩猟の名人であるので、二匹の犬、三匹の犬とともにうまく狩猟をするが、
- 28805 ne okay pe ne yakka too kotanpa wa kotankes wa inneno seta uekarpa hine
これらの犬たちも、村のずっと上手や下手からも大勢の犬が集まって、
- 28806 orowano mik rok mik rok.
吠え続ける。
- 28807 a=utari utar ne yakka sino ison utar
私の同胞たちも、とても狩りが上手で、
- 28808 tu seta re seta pakno¹³ koyson pa p ne kusu
二匹の犬、三匹もの犬とともにうまく狩猟をするので、
- 28809 tan poro kotan or un seta hompok wanhot ne seta humnan h_i kouekarpa wa
この大きな村に何百匹の犬が一つの場所に集まって
- 28810 mik pa hawe ne nankor y_a.
吠えているのであろうか。
- 28811 tane easir inne seta haw tan poro kotan kurkasike pepunitara.
今や本当に大群の犬の声が、この大きな村の上一帯にうるさく響いている。
- 28812 sonno kisarpuy ka a=sak kane nitay rapok eionimpa
本当に耳がつぶれてしまうかというくらい、林の中でこだまして、
- 28813 mosir kuttom koturimimse kane
国中に鳴り響くほどで、
- 28814 easka wen ioyamokte a=ki a=kor katkemat ne yakka sino ioyamokte pa.

¹¹ ここは金成マツ氏自身の筆録に従う。知里幸恵の筆録したものの中には、sironuman という語形が用いられている例が複数みえる（【知里幸恵ウウエペケレ】 p.10, 34, 41）。元になっている筆録ノートには、shir onuman と書かれている場合と shironuman と書かれている場合があるようだ（金田一 1957）。

¹² koison は ko-ison であると考えられるが、用例は見当たらない。ここでは、「～とともに・狩猟がうまい」と解釈した。

¹³ ここで pakno が用いられているということは、通常は犬一匹くらいとともに狩猟をしているが、二匹三匹を連れていく程までに狩猟がうまい、ということになるだろうか。

私も本当にひどく不審なことだと思い、私の妻もとても不審がる。

- 28815 rapoki ta a=utari utar easka uhomatpare hine
その間に私の同胞たちは互いに狼狽して、
- 28816 i=or_ ta arki wa ene uhawtaroyse
私のところへやって来て、次のように騒がしく言う
- 28817 “inkar kusu kotan kor upen nispa nekon ne hawe tapan¹⁴
「聞いてください、若い村長さん、どうしたことだろうか。」
- 28818 tanekuran¹⁵ tap ene sirkunne ancikar epekano¹⁶
今夜はこのように日が暮れて、ちょうど夜中になると
- 28819 kotan koehankeno nitay corpok un tapkoraci kotan eun
村の近くで林の中でこのように村に向かって

p.289

【原文翻刻】

48 eun seta utar uhumna / 49 ni kouwekarpa wa hemanta / 50 nukar wa emik hawe neya ta- / 51 tushbe kar an wa inne atopane / 52 wa baye an wa inkaran kusu / 53 ne koroka inne seta topaha son / 54 no tan rikbeka chiu tasare son / 55 no op chieatchiu apkor kane / 56 tane tane Iuko kubapa an Iehebo- / 57 rabora an anke seta utar uni / 58 wente sonno ramu kittararke / 59 an nei Aemikbe neita anruwe / 60 neya ponnoka sonno Anukar ru- / 61 wene eashka ramu kittararke / 62 an rupne utar newa neyakka / 63 tapne an seta mik hushkine wa / 64 no oar oar Anu eramishkare / 65 ruwe ne ari shino uyaikouye / 66 bekere koro shiran ruwene kotan / 67 koro Nishpa nekona Esanniyo / 68 hawash ene ani taan ari Ikouye / 69 bekennupa Aokai neyakka tane / 70 bakno neino okai hawash anuka / 71 eramishkare ubashkuma otta / 72 neyakun nepka chiramantep / 73 hene ne ari yainu ambe ne koroka / 74 konep chiramantep neko hau / 75 sakno mono an kane ambe / 76 newa kusu oar oar Aeram / 77 beutek nisatta tokap inne utar / 78 ne baye an wa pirikano shir / 79 wante an kusu ne ari ese an /

【現代表記・日本語訳】

- 28901 seta utar uhumnan h_i kouekarpa wa, hemanta nukar wa emik hawe ne ya.
犬たちが皆一つの場所へと集まって、何を見て吠える声なのだろうか。
- 28902 tatuspekar=an wa inne a=topa ne wa paye=an wa inkar=an kusu ne korka
たいまつを灯して、大勢で行ってみるべきなのだが、

¹⁴ nekone hawe ta an? : どうしたことだ (知里はつ「川上の首領が一つ目の男を退治する」224行目【知里真志保フィールド4】)

¹⁵ 金成マツは筆録ノートにおいて tanekuran を用いるが、知里幸恵は tanukuran を用いており【ノート版神謡集】第2話 towa towa to252行目、幌別方言が tanekuran という形を用いるわけではないようである。【方言辞典】では八雲と宗谷で tanekuran という形が記録されている (p.247)。

¹⁶ chankeno は元々は空間上の位置関係について用いられるようだが、ここでは時間を述べた後で用いられている。【萱野辞典】に、isen isen nea unarpe kunneywa pismo ipe epekano ek siri (またしてもあのおばさん、毎朝食べているのを目がけてやってくる) という用例があり (p.56)、これは境界例に相当するだろうか

- 28903 inne seta topaha sonno tan rikpeka ciutasare¹⁷ sonno op cieatciw¹⁸ apkor kane
大勢の犬の群れが本当にこの上方を交差しつつ、槍が投げられるかのようで、
- 28904 tane tane i=ukokupapa=an i=eheporapora=an¹⁹ anke²⁰ seta utar uniwente²¹
今にも噛みつかれて、振り回されそうなほどに、犬たちが威嚇して、
- 28905 sonno ramukittararke=an.
とても気味が悪い。
- 28906 ne a=emik pe neyta an ruwe ne ya, ponno ka somo a=nukar ruwe ne.
その吠えられている物がどこにあるのか、少しも見えない。
- 28907 easka ramukittararke=an. rupne utar ne wa ne yakka
本当に気味が悪い。年配の者たちであっても、
- 28908 ‘tapne an seta mik huskone wano oar oar a=nu eramiskare ruwe ne’
『このように犬が吠えるのは、昔から全く聞いたことがない』
- 28909 ari sino uyaykouepekere kor siran ruwe ne.
と、とても皆で困っている様子だ。
- 28910 kotan kor nispa nekon a=esanniyo hawas ene an h_i ta an’
村長さん、どのように考えればよい話なのでしょうか」
- 28911 ari i=kouepekennu pa.
と私に口々に尋ねてくる。
- 28912 aokay ne yakka tane pakno neno okay hawas a=nu ka eramiskare.
私も今までこのような声を聞いたことがない。
- 28913 <upaskuma or_ ta ne yakun
<言い伝え(ウパシクマ)においてであれば、
- 28914 nep ka ciramantep hene ne> ari yaynu=an pe ne korka
何かの獲物であったりするのだ>と私は思うが、
- 28915 konep²² ciramantep ne ko hawsak no mono an kane an pe ne wa kusu
何の獲物としての声を出さずにじっとそのままの物だから、
- 28916 oar oar a=erampewtek.
まったく分からない。
- 28917 <nisatta tokap inne utar ne paye=an wa
明日の昼間に大勢で行って、
- 28918 pirkano siruwante=an kusu ne> ari ese=an
よく調べようということで私たちは同意して

¹⁷ 大勢の犬が怒って飛び掛かってくる様子をこのように表現しているのではないかと考えた。以下の op cieatciw も同様。

¹⁸ atciw は【久保寺辞典稿】や【バチラー辞典】に「槍を投げる」とあるが、『バチラー辞典』では他動詞(v.t.)とされている。また、【知里真志保フィールド4】中の「4-3 雷神に魅入られて川上の首領の妻が乱心する」に tasiro i=atciw kusu (山刀を私に投げようとして) という用例がある。

¹⁹ heporapora : 頭を前後に振る【久保寺辞典稿】p.90 ; eheporappa : ~を振り回す【奥田語彙】

²⁰ anke : (=anki)【久保寺辞典稿】p.16。

²¹ uniwente : 皆で威嚇する【沙流方言辞典】p.773 ; niwen : いがむ、威嚇する【久保寺辞典稿】p.204。

²² konep : 一体、何の【久保寺辞典稿】p.158。

p.290

【原文翻刻】

80 hotke an tane siri beker aike / 81 nea seta mik chitui tekka / 82 orowano Autari inne tobaha / 83 opkorbe emush korbe Ai ku korbe / 84 tobaha Atura wa nea ushiketa / 85 baye an wa Inkaranko sonno inne / 86 seta ruyehe uko hobitpa ruye / 87 he sonno toita an apkoro siran. / 88 nitai choroboke inne setaru chi / 89 nina nina koroka oar oar mosh- / 90 ma nepka ruyehaka nepka Ao- / 91 yamokte kane okai chikuni hene / 92 ekaini hene shinepka isam shino / 93 Aobittano iyoya mokte an kor hoshi / 94 ppa an tane shironuman ko orowa / 95 no sui ukuran korachi hawash / 96 tane anakne mokor ka Aeaikap / 97 kane ramushitne an Autari utar / 98 anakne tane anakne shino ra- / 99 mukittararkepa hekattar utar / 100 hene menoko utar hene shino / 101 Ishitoma uchistaspare naa / 102 shiri beker I wano kotan ebitta / 103 okai utar obitta no yaiko aba / 104 seshke yaiko burai etuipa / 105 kane Akor katkemat neyakka / 106 shino ramu kittararke hine / 107 Auihi (Aunihi?) neyakka neino tunash / 108 no wano Aba seshke burai etui / 109 ba tane anakne kesan chikar / 110 nei hawash an Autari utar / 111 anak ne tane tokap neyakka /

【現代表記・日本語訳】

- 29001 hotke=an. tane sirpeker ayke, nea seta mik cituytekka,
私は横になる。夜が明けると、あの犬の鳴き声は止み、
- 29002 orowano a=utari inne topaha op kor pe emus kor pe
そして同胞たちは大勢で、槍を持つ者、太刀を持つ者、
- 29003 ay ku kor pe topaha a=tura wa, nea usike ta paye=an wa inkar=an ko,
弓矢を持つ者の一群を私は連れて、その場所へと私たちは行って眺めると、
- 29004 sonno inne seta ruyehe ukohopitpa²³ ruyehe
本当に大群の犬の足跡が、皆で走り回った跡が、
- 29005 sonno toyta=an apkor siran.
本当に土が掘り返されたかのようなのである。
- 29006 nitay corpoke inne seta ru cininanina korka,
林の中にたくさんの犬の足跡がびっしりと付いているが、
- 29007 oar oar mosma nep ka ruyehe ka,
その他には何の跡も、
- 29008 nep ka a=oyamokte kane okay cikuni hene ekayni hene sinep ka isam.
私たちが不審に思うような、何の木も、折れ木も一本もない。
- 29010 sino a=opittano ioyamokte=an kor hosippa=an.
私たちは皆とても不審に思いながら帰ってくる。
- 29011 tane sironuman ko orowano suy ukuran koraci hawas.
さて日が暮れると、また夕べと同じように（犬の吠え）声がある。
- 29012 tane anakne mokor ka a=eaykap kane ramusitne=an.
今や私は眠ることもできないほど気をもむ。
- 29013 a=utari utar anakne tane anakne sino ramukittararke pa,
私の同胞たちは、今やとても気味が悪がっており、
- 29014 hekattar utar hene menoko utar hene sino isitoma ucistaspare.

²³ hopiye : 早く走る (hopitpa) 【久保寺辞典稿】 p.96.

- 子どもたちや女性たちもとても怖がり、一緒に泣く。
- 29015 naa sirpeker h_i wano kotan epitta okay utar
まだ明るい時分から村中の人々が
- 29016 opittano yaykoapaske yaykopurayetuypa kane,
すべて戸を閉め、窓を閉ざしているほどで、
- 29017 a=kor katkemat ne yakka sino ramukittararke hine,
私の妻もとても気味悪く思い、
- 29018 a=unihi ne yakka neno tunasno wano apaseske purayetuypa.
私たちの家も同様に早い時間から戸を閉め、窓を閉ざす。
- 29019 tane anakne kesancikar ne hawas an.
今や毎晩その(犬の吠え)声とする。
- 29020 a=utari utar anakne tane tokap ne yakka,
私の同胞たちは今や昼間であっても、

p.291

【原文翻刻】

112 Irauki tuba somoki menoko / 113 utar hene obittano kimta mon / 114 raike hene nina hene somokino / 115 chishkor okai yak aye Akor / 116 katkemat neyakka shino ra / 117 kittararkep ne kusu keshto / 118 chise oro oma sonno Aokai ne / 119 yakka ramubekamam? an tane / 120 anak ne tuwan keshto rewan / 121 keshoto anchikar otta batek neino / 122 seta mik hemanta ene seta emi- / 123 k hawe ani taan Ainu Anewa / 124 baye an yakka somonep Anukar / 125 tambe kusu seenne seta Ashine / 126 rewa omananko somo un nepka / 127 Anukar ya un ari yainu / 128 An wa kusu annoshki baki / 129 ta habunno hobuni an akor / 130 katkemat keshukuran somo / 131 mokonno ramu shitnepne / 132 kusu shino mokonno wa etoro / 133 koro okai rabokita ikaira an / 134 wa soine an kunne chup / 135 ka isam sonno shiri kunne / 136 orun seta mik wa sonno shiri / 137 bop apkoro hawash chiki sonno / 138 Aeramuka kittararke koroka / 139 hembara bakno tapkorachi / 140 utat turanno kamui turan / 141 no chiramu shitnere Aiyekar / 142 kar hawe konep nitne kamui / 143 he beker kamui hetapne or

【現代表記・日本語訳】

- 29101 irawkitupa somo ki.
仕事をしない。
- 29102 menoko utar hene opittano kim ta monrayke hene nina hene somo ki no
女性たちも、皆が山での仕事も薪採りもせずに
- 29103 cis kor okay yak a=ye.
泣いていると人々が言う。
- 29104 a=kor katkemat ne yakka sino ramukittararke²⁴ p ne kusu kes to cise oro oma.
私の妻も、とても気味悪がっているものだから、毎日家の中にいる。
- 29105 sonno aokay ne yakka ramupekamam=an²⁵.

²⁴ 原ノートの rakittararke は、mu が抜け落ちたのであろうと判断した。

²⁵ ramupekamam : 「気苦労する」【沙流方言辞典】p.559 ; 難儀する、難渋する【久保寺辞典稿】p.219 ; to be troubled, to be sorrowful【バチラー辞典】p.411 ; 悲しむ(幌別)、苦しむ(沙流)【方言辞典】p.163 ; 不愉快に思う、なんぎする、くろおする【人間篇】p.616

- とても私も難儀する。
- 29106 tane anakne tu wan kes to re wan kes to ancikar or_ ta patek neno seta mik.
今や二十日も三十日も続いて、夜にだけそのように犬が吠える。
- 29107 <hemanta ene seta emik hawe an h_i ta an.
<なぜそのように犬が吠えるのであろうか。
- 29108 aynu a=ne wa paye=an yakka somo nep a=nukar.
人間として私が行ったとしても、何も見ることはできないだろう。
- 29109 tanpe kusu seenne seta a=sinere wa oman=an ko
なので、ひょっとして犬のふりをして行けば、
- 29110 somo un²⁶ nep ka a=nukar ya un> ari yaynu=an wa kusu
もしや何か見えるのではないかと私は考えて、
- 29111 annoski pakita hapunno hopuni=an.
ちょうど真夜中になってそっと私は起き上がる。
- 29112 a=kor katkemat kes ukuran somo mokor_ no ramusitne p ne kusu,
私の妻は毎晩眠れずに苦しんでいるので、
- 29113 sino mokonno wa etor kor okay rapoki ta ikuyra=an wa soyne=an.
よく眠っていて、いびきをかいている間に²⁷、私はそっと抜け出して外に出る。
- 29114 kunne cup ka isam sonno sirkunne or un seta mik wa,
月もなく、とても暗い所に犬の吠える声がして、
- 29115 sonno sirpop apkor hawas ciki sonno a=eramukakittararke korka,
とても辺りが沸き立つまでに吠えているので、私も気味悪く思うが、
- 29116 hempara pakno tap koraci utar_ turanno kamuy turanno
いつまでこのように同胞たちとも、カムイたちとも
- 29117 ciramusitnere a=i=ekarkar hawe.
苦しませられるのか。
- 29118 konep nitne kamuy he peker kamuy he tapne
一体何の悪いカムイなのか善いカムイなのか、このように

p.292

【原文翻刻】

144 setakko irara hawe okai / 145 chiki shino irushka an / 146 kane tane ehankeno omanan / 147 ko orowa seta neino tekchikir / 148 bo eine chikir ne reye an / 149 kane Aokai neyakka mik / 150 an koro inne seta utur / 151 Akorau oshma shiri ekurok / 152 be ne kusu inne seta utar / 153 Aokai neyakka seta nekuni / 154 ramupa hine Ienka beka / 155 neyakka uterkere seta tumbe- / 156 ka shiktokoko an wa Inkaran / 157 seta utar inne kasuibe ne / 158 kusu inani un shino inkar / 159 wa ene mik kotush tek I / 160 neya chikiboka un Aerambe - / 161 tek anke yainu An koroka / 162 hushko toi wano yayinkar / 163 pirikare an aine seta nima - / 164 ra nikitai un inkar kane / 165 horka terke horka terke ka- / 166 ne Ikichi shiri Aeraman wa / 167 kusu nitai kurka Auwam- / 168 pare wa inkaran awa nitai / 169 tumta shiboro sunku ashru / 170 we meuna tara neikitai / 171 ke

²⁶ ひょっとして【奥田語彙】

²⁷ 妻があまり眠れていないので、ちょうどよく眠っている頃合いをうまく見計らって外に出た、ということになるか。

konep ne kunip nenanko- / 172 ra chup chise ne ham tu- / 173 muke un Ekiyai oma rera / 174 kar ko chisi shuyere neiko / 175 rachi hure Imeru chup kiyai /

【現代表記・日本語訳】

- 29201 orsetakko irara hawe okay ciki sino iruska=an kane,
長い間にわたり人を馬鹿にした話だと私はとても腹が立って、
- 29202 tane ehankeno oman=an ko,
さてそれほど遠くないところへ私は行き、
- 29203 orowa seta neno tekcikirpo eyne cikir ne reye=an kane²⁸,
そして犬のように手を下について四つん這いになって、
- 29204 aokay ne yakka mik=an kor inne seta utur a=korawosma.
私も吠えながら大勢の犬の間へと潜り込んでいく。
- 29205 sirekurok pe ne kusu, inne seta utar aokay ne yakka seta ne kuni ramu pa hine,
真っ暗なものだから、大勢の犬たちは私のことも犬だと思って、
- 29206 i=enka peka ne yakka uterkere.
私の上でも互いに飛び交う。
- 29207 seta tumpeka siktokoko=an wa inkar=an.
犬の間で私は目を見開いてじっと見る。
- 29208 seta utar inne kasuy pe ne kusu,
犬たちはあまりにも数が多いので、
- 29209 inaniun sino inkar wa
どちらの方向へ目をやって
- 29210 ene mik kotustek h_i ne ya ciki
そのように吠えることに夢中になっているのであろうか、
- 29211 cikipo ka un²⁹ a=erampetek anke yaynu=an korka,
あいにくにも私は分からないのではないかと思うが、
- 29212 huskotoy wano yayinkarpirkare=an³⁰ ayne,
長い間じっと目を凝らしていると、
- 29213 seta nimara ni kitay un inkar kane,
犬の半数は木の梢を見て、
- 29214 horka terke horka terke kane iki ci siri a=eraman wa kusu,
後ずさって後ずさってしている様子を、私は見て取ったので、
- 29215 nitay kurka a=uwampare wa inkar=an awa,
林の上一帯を私はじっと確認するように見ていたところ、
- 29216 nitay tum ta siporo sunku as ruwe mewnatara.
林の中にとっても大きなエゾマツが立派に立っている。
- 29217 ne kitayke konep ne kuni p ne nankor y_a,
その先端に、一体何であろうか、

²⁸ tek cikirpo eyne cikir a=kar wa : 手を下について四這ひになりて【久保寺辞典稿】 p.323。

²⁹ ciki poka un : ままになるなら【虎杖丸別伝】 p.98. ciki poka : あいにくにも【ユーカー集 4】 p.122. cikipo-ka-un 他 : (adv.) すんでのことに【久保寺辞典稿】 p.40. ここでは【久保寺辞典稿】の分析を採用する。

³⁰ yayinkarpirkare : 眸(ひとみ)を凝らす【久保寺辞典稿】 p.372。

- 29218 cupcise³¹ ne ham tumuke un ekiyayoma³² rerakar³³ ko
月の暈(かさ)のように、葉叢(はむら)の中に光を曳いて、風に当たって
- 29219 cisisuyere³⁴ ne h_i koraci hure imeru cupkiyay ne
ぐるぐる回っているような赤いきらめきが、月光のように

p.293

【原文翻刻】

176 ne nitai chorboke eemakke / 177 makke newa ambe seta utar / 178 oya mokte kusu ene kesukuran / 179 hawe okai i nerok okai hemanta / 180 ene nikitai ta an wa rera suye / 181 shiri shino Aoyamokte shiribeker / 182 ita sui ek an wa inkaran kuni / 183 Aramu kusu sui inne seta tumu / 184 beka reye an wa seta hau aki ka- / 185 ne san an aine tane tuima no / 186 sananko orowa eashka hese turiri / 187 An Ainune ash an kane hobita / 188 An terke an kane Auunihita³⁵ / 189 shirepa an Akor katkemat nep oru- / 190 shebeka erambetek wa ramma etoro / 191 koran Aemina rusui koro sui / 192 hoke³⁶ an tane shiribeker koeram / 193 no sui nea seta mik hau tui / 194 kunne wano Akor katkemat shu- / 195 ke rabokita irukai yaisoinere / 196 an shioyapkire an autari utar / 197 ka ermbetek no nea ushiketa / 198 Ek anwa inkaranko hushkotoi / 199 wano Ashwa ponram orowano / 200 Aeraman a tam boro shunku / 201 raun niteke amtoi kurka chi / 202 kampare rikun niteke shini- / 203 shkurka chiko bumpa kane shi- / 204 ranko hamuhu ironnep ne ku- / 205 su oboso herikashi somo nepka / 206 Anukar tambe kusu nimu hene / 207 ponram orwa no Eyayotuwashi /

【現代表記・日本語訳】

- 29301 nitay corpoke eemakkemakke³⁷.
林の下でぴかぴか光っている。
- 29302 ne wa an pe seta utar oyamokte kusu ene kesukuran haweokay h_i ne rokokay.
だから、その犬たちは不審がって、そのように毎夜声を上げていたのだった。
- 29303 hemanta ene ni kitay ta an wa rerasuye³⁸ siri sino a=oyamokte.
何がそのように木の梢にあって揺らめいているのか、とても私は不審に思う。
- 29304 sirpeker h_i ta suy ek=an wa inkar=an kuni a=ramu kusu,
夜が明けたらまた来てみようとは私は思ったので、
- 29305 suy inne seta tumpeka reye=an wa seta haw a=ki kane san=an ayne,
また大勢の犬の間を這って、犬の声を上げながら山を下りて、
- 29306 tane tuymano san=an ko orowa easka heseturiri=an.
長い距離を下りてきて、そしてやっと息をついた。
- 29307 aynu ne as=an kane hopita=an terke=an kane a=unihi ta sirepa=an.

³¹ cupcise : 月の暈【萱野辞典】 p.316。

³² ekiyayoma : 光を曳いている【久保寺辞典稿】 p.61。

³³ rerakar : 風に動かされる、疫病が流行する【久保寺辞典稿】 p.224、風に当たる【奥田語彙】

³⁴ cisisuyere : ぐるぐる回る【久保寺辞典稿】 p.48。

³⁵ Aunihita の書き間違えだろうか。

³⁶ hotke の書き間違えだろうか。

³⁷ makke : 光る (=mike) asso kotor eemakkemakke ぴかぴかする【久保寺辞典稿】 p.177。

³⁸ rerasuye : 風ゆさぶる【久保寺辞典稿】 p.266 ; ゆらめく【萱野辞典】 p.477。

- 人間になって立ち上がって、走って駆けて自分の家に着いた。
- 29308 a=kor katkemat nep oruspe ka erampetek wa ramma etoro kor an.
私の妻はどういうことなのかも知れず、やはりいびきをかいている。
- 29309 a=emina rusuy kor suy hotke=an.
私は笑いそうになりながら、また横になる。
- 29310 tane sirpeker koeramno³⁹ suy nea seta mik haw tuy.
さて、夜が明けるとともに、またあの犬の吠える声がしなくなる。
- 29311 kunnewano a=kor katkemat suke rapoki ta
朝に私の妻は料理をして、その間に
- 29312 irukay yaysoynere=an sioyapkire=an⁴⁰
ちょっと私は外に出て、別事をしているふりをして、
- 29313 a=utari utar ka erampetek no nea usike ta ek=an wa inkar=an ko,
私の同胞たちも気づかないまま、例の場所にやって来て辺りを見ると、
- 29314 huskotoy wano as wa ponram oro wano a=eraman a tan poro sunku
昔から立っていて、幼い時から知っていた、この大きなエゾマツは、
- 29315 raun niteke amttoy kurka cikampare⁴¹
下方の枝が地表を覆い、
- 29316 rikun niteke siniskurka cikopunpa kane siran ko
上方の枝が高い空に持ち上がるほどの様子で、
- 29317 hamuhu ironne p ne kusu oposo herikasi somo nep ka a=nukar.
その葉が厚く重なっている、そこを通して上方には何も見えない。
- 29318 tanpe kusu nimu hene ponram or wano eyayotuwasi⁴²
なので、木を登ることについても、幼い頃から私は自信を

p.294

【原文翻刻】

208 kuru Ane kusu earkabarbe / 209 Ayaikonoye wa nimu an usa / 210 nitek aeok eok koroka Aamke / 211 Amke kane hushko toi wano / 212 iki an aine toop nikitai ta shire / 213 pa an awa hemanta ambe Anan / 214 kotchaketa ratki ratki shisuye / 215 shuye nei nubeki sonno chup / 216 kiyai ne tambe kusu pirikano / 217 Ashikihi makke eaikap shik / 218 chububu ankane pirikano inka / 219 ran awa seenne kasui shiran ku- / 220 ni Aramu ai boro shirokani kon- / 221 kani chiwe kar kane an tampa- / 222 kop konkani kiseri Eush kane / 223 nikitai eok kane shiran shino / 224 Iyokunure an Auk chiki he pirika / 225 somoki he pirika newa Ek kusu / 226 taban nikitai ta ambe an Aokai / 227 moshma tan chikuni konimu / 228 eashkai kuru shinenka isam / 229 nankor tapkorachi Aante yakun / 230 neita bakno neyakka seta mik ari / 231 Autari utar tura kamui utar tu- / 232 ra hene uko wen ramubekamam / 233 nankor tambe kusu nekonneyak / 234 ka Auk wa kamui

³⁹ koeramno : 助 それと共に? 【久保寺辞典稿】 p.154.

⁴⁰ sioyapkire=an 「私は別事をしているふりをして」 <si-oyap-ki-re <自分に・別なこと・をする・させる> 【自動詞】 別なことをする、裏をかく 【人喰い鬼】 p.241 および p.261 註 12.

⁴¹ kampa : 覆う、かぶれる (単数形は kamu) 【久保寺辞典稿】 p.132.

⁴² eyayotuwasi : ~について自分を頼りにする 【奥田語彙】

tom aekokanu / 235 wa nea yakne okaketa nepkamui / 236 Eikushnukarbe neya Eikoramnukar / 237 be neya Aeraman nankoro tapko- / 238 rachi ambe anakne bashta / 239 kamui korbe somone kuni Ara-

【現代表記・日本語訳】

- 29401 kur a=ne kusu, earkaparpe⁴³ a=yaykonoye wa nimu=an.
もっているの、薄い着物一枚を身にまとっただけで私は木を登る。
- 29402 usa nitek a=eokeok⁴⁴ korka a=amkeamke kane,
幾つもの木の枝に私は引っかけ引っかけしたが、それを外し外しして、
- 29403 huskotoy wano iki=an ayne toop ni kitay ta sirepa=an awa,
長いことそのようにした挙句に、はるか木の先端にたどり着いたところ、
- 29404 hemanta an pe an=an kotcake ta ratkiratki sisuyesuye ne.
何か、私のいる前でぶらぶら下がり、揺れ動いている。
- 29405 nupeki sonno cupkiyay ne.
その光は、本当に日光のようだ。
- 29406 tanpe kusu pirkano a=sikihi makke eaykap.
そのため私はうまく自分の目を開けることができない。
- 29407 sikcupupu=an kane pirkano inkar=an awa,
私は目を細めて、よく眺めたところ、
- 29408 seenne ka suy siran kuni a=ramu a h_i,
何ともまた意外なことに、
- 29409 poro sirokani konkani ciekar kane an tampakop konkani kiseri eus kane,
銀と金で作られている大きな煙草入れが、金のキセルがそこに付いて、
- 29410 ni kitay eok kane siran.
木の梢に引っかかっている様子である。
- 29411 sino iyokunure=an, a=uk ciki he pirka somo ki he pirka,
私は本当に驚いて、私が [それを] 取るのがいいのか、取らないのがいいのか、
- 29412 ne wa ek kusu tapan ni kitay ta an pe an.
どこから来て、この木の梢ににあるのか。
- 29413 aokay mosma tan cikuni konimu easkay kur sinen ka isam nankor.
私以外にこの木を登ることができる者は一人もいないだろう。
- 29414 tap koraci a=ante yakun neyta pakno ne yakka seta mik,
このまま私が置いておけば、いつまでも犬が吠え、
- 29415 ari a=utari utar tura kamuy utar tura hene ukowen ramupekamam nankor.
それで私の同胞たちとカムイたちも、皆が不快な思いをして、苦勞をするだろう。
- 29416 tanpe kusu nekon ne yakka a=uk wa,
なので、いずれにしても私が (その煙草入れを) 取って、
- 29417 kamuy tom a=ekokanu⁴⁵ wa ne a yakne,
カムイの意向に従っていたならば、

⁴³ earkaparpe : 一枚の着物. 只一枚の薄衣【久保寺辞典稿】 p.54.

⁴⁴ eok : 当たる (単数) , v.t. to knock or kick against【バチラー辞典】 p.120.

⁴⁵ tom(o) kokanu 「～に忠実に従う」【沙流方言辞典】 p.720) ; tomkokanu/tomokokanu 「任せる」【久保寺辞典】 p.330.

- 29418 okake ta nep kamuy eikasnukar⁴⁶ pe ne ya,
その後で、何のカムイが下した物なのか、
- 29419 eikoramnukar⁴⁷ pe ne ya a=eraman nankor.
試そうとしている物なのかが分かるだろう。
- 29420 tap koraci an pe anakne pasta kamuy kor pe somo ne kuni a=ramu kusu,
このようにある物は、並みのカムイの持ち物（宝物）ではないだろうと私は思うので、

p.295

【原文翻刻】

240 mu kusu Auk wa ranan / 241 ni chor bokta ranan wa sui pirika / 242 no Anukar kunne anko rerashu- / 243 yewa nei nubeki kuroma ita ne / 244 kusu nubekihhi neita bakno neya- / 245 kka makke makke tambe kusu e / 246 ne seta emik hawe nerok okai tokap / 247 ar anak ne tokap chup nubeki newa / 248 tampakop nubeki ukoboike tambe / 249 kusu tokap seta emik somoki katu / 250 Aeraman eashka iyokunre⁴⁸ ankor / 251 Aupsoro Aomarewa Aunihita ekan / 252 Aeumashnu tap orowa tapne nei / 253 kamui huchi Anure nei ean- / 254 chikar wano nea seta mik chi- / 255 tui tekka nep haweka isam son / 256 no kotan kurka? ratchi kamui he / 257 ne ainu hene ratchi mokonnoi / 258 Aeraman shino keutum otta iyo- / 259 kunure An hunabakun tapkora- / 260 chi iki an kushkeraibo kotan rat / 261 chi ari yainu an Akor katkemat / 262 hene Autari hene shine ikinne / 263 shino iyoyamokte hemem kipa / 264 nubetne hene kipa orowano eashi- / 265 ri Autari utar hene Akor katke- / 266 mat hene ramma ukorachi / 267 kimta irauki tuba hene nepne / 268 yakka kieashkai shine anchikar / 269 ta mokor an awa Ierupshiketa / 270 kani kosonte tum ourebuni kane / 271 kunneru retanru ubakte kane /

【現代表記・日本語訳】

- 29501 a=uk wa ran=an. ni corpok ta ran=an wa suy pirkano a=nukar.
私は手にして下りる。木の下へ降りて、もう一度よく[その煙草入れを]見てみる。
- 29502 kunne an ko rera suye wa ne nupeki...
夜になると風がその煙草入れを揺らして、その光が.....
- 29503 kuroma h_i ta ne kusu nupekihhi neyta pakno ne yakka makkemakke.
真っ暗な場所であるので、その光がどこまででも輝いている。
- 29504 tanpe kusu ene seta emik hawe ne rokokay.
なので、そのように犬が吠える声がしていたのだ。
- 29505 tokap anakne ne tokap cup nupeki newa tampakop nupeki ukopoyke.
昼には、その太陽の光と煙草入れの光が混ざってしまう。

⁴⁶ eikasnukar : (v.t.) to give, to bestow 【バチラー辞典】 p.107) ; ~を恵み与える 【奥田語彙】

kasnukar: (1) 守る、守護する、御守となる、(2) 恵んでやる、くれてやる 【久保寺辞典稿】 p.140。

⁴⁷ koramnukar : (他動) ~の度量/力量を見る(試す) 【沙流方言辞典】 p.334 ; 試む、ためす、へ試みる 【久保寺辞典稿】 p.162

⁴⁸ 本来ここは iyokunure とあるべきで、金成マツ氏も他の箇所ではそのように書いている。氏の書き方では n と u が非常に似通っており、書いたつもりで飛ばしてしまったのかもしれない。

- 29506 tanpe kusu tokap seta emik somo ki katu a=eraman.
 なので、昼は犬が吠えなかったのだということが分かる。
- 29507 easka iyokunure=an kor a=upsoro a=omare wa a=unihi ta ek=an a=eumasnu⁴⁹.
 私はとても驚いて、自分の懐に入れて、家まで来て、しまいこむ。
- 29508 tap orowa tapne ne kamuy huci a=nure.
 さてそうして、かくかくしかじかと火の媼神に話して聞かせる。
- 29509 ne eancikar wano nea seta mik cituytekka nep hawe ka isam.
 その晩からその犬が吠える声がピタリと止み、何の声もしない。
- 29510 sonno kotan kurka ratci kamuy hene aynu hene
 本当に村の一角が静かで(穏やかで)、カムイも人間も
- 29511 ratci mokonno h_i a=eraman. sino kewtum or_ ta iyokunure=an.
 ゆったりと、よく寝ていることが私には分かる。私はとても心の中で驚く。
- 29512 hunapak un⁵⁰ tap koraci iki=an kuskeraypo kotan ratci ari yaynu=an.
 幸いにも、このように私がしたおかげで、村が平穏であるのだと私は思う。
- 29513 a=kor katkemat hene a=utari hene sine ikinne
 私の妻も、同胞たちも、皆揃って
- 29514 sino ioyamokte hemem ki pa nupetne hene ki pa.
 とてもびっくりしたり喜んだりしている。
- 29515 orowano easir a=utari utar hene a=kor katkemat hene
 そうしてやっとな、同胞たちも妻も、
- 29516 ramma ukoraci kim ta irawkitupa hene nep ne yakka ki easkay.
 いつもと同じように山仕事をしに行くのも、他の何のことででもできるようになる。
- 29517 sine ancikar ta mokor=an awa
 ある晩に、私が寝ていると、
- 29518 i=erupsike ta kani kosonte tum ourepuni⁵¹ kane kunneru retanru upakte kane⁵²
 私の枕上に、金の小袖を重ね着した、黒髪に白髪と同じくらい混じって

p.296

【原文翻刻】

272 okai kamui mina kane Ihekota / 273 shikirpa itak hawe ene okai i in / 274 kar tan
 urashbetun Ahekote uben / 275 Nishpa itakan chiki pirikano / 276 nuyan Aokai anakne
 newa tui- / 277 ma iwa Ek kamuy Aneka somoki / 278 chise kor kamui Ane ruwe ne / 279
 kamui ari ayep anakne tunash / 280 no hosarbap somone kusu seta / 281 mik kotomno
 Iramu an a koroka / 282 kamui neyakka usaine usaine / 283 ushinnai ushinnai monrai
 ke - / 284 p ne kusu Akoeramunin wa Anan / 285 awa tap nahun kamui huchi tap / 286 ne
 tapne nei katu Inure ruwe ne / 287 tampe kusu inkaran ruwe ne sonno / 288 boka nerok

⁴⁹ eumasnu (Eumashnu): 集ムル、蓄ヘル v.t. to collect, to store up, to put away【バチラー辞典】p.141.

⁵⁰ hunapakunsuy (hunapakunsui): 「さいわいに」「いいぐあいに」「いいあんばいに」【ユーカラ集 3】p.97、p.177、p.257、p.310。

⁵¹ tum(u)-ourepuni: 襲ね着る【久保寺辞典稿】p.338。

⁵² kunne ru retan ru upakte kane an pe: 白髪交リノ人【久保寺辞典稿】p.271、ruの項)、kunneru retanru upakte kane poro sukup mat: 斑白ノ老女(同p.171、kungeの項)、他に【千歳方言辞典】p.66、p.416、【沙流方言辞典】p.363、p.576にもある)。

okai tambe kusu nei / 289 tampakop newa ekbenewa nikitaita / 290 ratkip neya Ahunara wa inkaran / 291 awa oroyachiki hushkotoita kotan / 292 kar kamui Ainu kotan kar wa / 293 okere orowa kanto orun rikin / 294 unihi ta rikin orowa inkar aike / 295 tampakobi hachire awan kamui / 296 ne kusu Ainu kotan otta hachire / 297 okerep kanna sui kanto orun / 298 ukkuni eyainunuke tambe kusu / 299 sonno keutum pirika Ainu orun / 300 Eikashnukar rusui kusu heru / 301 ram ari nei tampakop nikitai / 302 Eokte koroka nenka koekarika somo- / 303 ki awan nei bakno neyakka neino

【現代表記・日本語訳】

- 29601 okay kamuy mina kane i=hekota sikirpa itak hawe ene okay h_i,
いるカムイが微笑みながら、私の方へ向き直って言うことには――
- 29602 “inkar tan Uraspēt un a=hekote upen nispa,
「これこのウラシペツの私が仕える若い長者よ、
- 29603 itak=an ciki pirkano nu yan.
私が話すのでよく聞くのですよ。
- 29604 aokay anakne newa tuyma h_i wa ek kamuy a=ne ka somo ki.
私はというと、どこか遠い場所から来たカムイではないのです。
- 29605 cise kor kamuy a=ne ruwe ne.
私は家を守るカムイ（チセコロカムイ）です。
- 29606 kamuy ari a=ye p anakne tunasno hosarpa p somo ne kusu
カムイと呼ばれるものたちは、早くから振り向くべきものでもないので、
- 29607 seta mik kotomno iramu=an a korka
犬が吠えているようだと私は思っていました、
- 29608 kamuy ne yakka usayne usayne usinnay usinnay monrayke p ne kusu
カムイもいろいろと仕事をしているもので、
- 29609 a=koeramunin⁵³ wa an=an awa
私は注意も払わずにいたところ、
- 29610 tap nahun⁵⁴ kamuy huci tapne tapne ne katu i=nure ruwe ne.
つい先ほど火の媼神が、かくかくしかじかだと、私に聞かせたのです。
- 29611 tanpe kusu inkar=an ruwe ne sonno poka ne rokokay.
なので私は見てみると、本当にそうなのでありました。
- 29612 tanpe kusu ne tampakop newa⁵⁵ ek pe ne wa
なので、その煙草入れが、どこから来て
- 29613 nikitay ta ratki p ne ya a=hunara wa inkar=an awa,
木のでっぺんから垂れ下がっているものなのか、私は探して見通したところ、
- 29614 oroyaciki huskotoy ta kotan kar kamuy aynu kotan kar wa okere
なんと大昔に村造りのカムイ（コタンカラカムイ）がアイヌの村を造り終えて、
- 29615 orowa kanto or un rikin unihi ta rikin oro wa inkar ayke
天へ上り、彼への家へと上り、そこから眺めたところ、

⁵³ eramunin : 向コフ見ズノ、注意セヌ v.t. rash, careless, to neglect, not to acknowledge, to treat as a stranger 【バチラー辞典】 p.127。

⁵⁴ tap nahun pakno : 今の今まで 【久保寺辞典稿】 p.321 ; nahun : 只今、数日以前 adv. just now, a few days ago, just a little while ago 【バチラー辞典】 p.310。

⁵⁵ cf. newa e=ek ya? (newa 'e'ek ya?) : 幌別 どこから来たか? 【方言辞典】 p.314。

- 29616 tampakopi hacire awan.
自分の煙草入れを落としてしまっていたのです。
- 29617 kamuy ne kusu aynu kotan or_ ta hacire okere p
カムイなので、アイヌの村に落としてしまった物を、
- 29618 kannu suy kanto or un uk kuni eyaynunuke.
またわざわざ再び天へと取り戻すようなわけにはいきません⁵⁶。
- 29619 tanpe kusu sonno kewtum pirka aynu or un eikasnukar rusuy kusu
なので、本当に心の良いアイヌへと恵みを与えたいと思い、
- 29620 heru ram ari ne tampakop nikitay eokte korka
ただ念じるだけでその煙草入れを木の梢に引っ掛けたのですが、
- 29621 nen ka koekari ka somo ki awan. ney pakno ne yakka neno
誰も振り向きもしなかったのです。いつまでもそのように

p.297

【原文翻刻】

304 nei tampakop anko wen kusu / 305 kotan kar kamui renkaine seta / 306 uwekarpa wa tampakop emikte / 307 neino neyakne Ainu utar shino / 308 Iyoyamokte wa arki wa inkar yak / 309 ne nani tampakop nukar nankor / 310 ari yainu awa nerok Ainu utar / 311 shino turam korpa ouse ishitoma / 312 batek kipa yaiko Aba seshke monrai / 313 keka somokipa newa ambe kotan / 314 kar kamui shino eminarusui / 315 tambe kusu naa naa Ainu / 316 ramkar ruwe ne awa shino waya- / 317 shnu kuru Ene kusu tapne tapne / 318 Eyainu wa neino Eiki wa base / 319 kamui korbe Euk ruwe ne awan / 320 kotan kar kamui shino erayap / 321 Ainu ari Aborsep nepka ponno / 322 ka nuburka somokibap ne awa / 323 kamui akkari washnu⁵⁷ shiri / 324 sonno erayap ruwe ne tambe / 325 kusu tantewa no taban kamui / 326 korobe Ikor sokkarne ekor wa / 327 neita bakno neyakka Esermak / 328 oma nepka marapto hene / 329 Ekar ita sanke wa tuba reba / 330 Eku kimun kamui utar hene / 331 shinomi yar ita sankewa / 332 Eeokanukar yak anak ne kamui / 333 utar ramma kamui korobe / 334 nukan rusui kusu ukaun / 335 ukaun Eotta shinomiyarko /

【現代表記・日本語訳】

- 29701 ne tampakop an ko wen kusu
その煙草入れがあってはいけないので、
- 29702 kotan kar kamuy renkayne seta uekarpa wa tampakop emikte.
村造りのカムイの力で犬が集まり、煙草入れへと吠えさせたのです。
- 29703 <nen ne yakne aynu utar sino ioyamokte wa arki wa inkar yakne
<そうすれば、人間たちがとても驚いて、やって来て見れば、
- 29704 nani tampakop nukar nankor> ari yaynu awa
すぐに煙草入れを見るだろう>と思ったのですが、
- 29705 nerok aynu utar sino turamkor pa ouse isitoma patek ki pa
その人間たちはとても臆病で、ひたすら恐ろしがり、
- 29706 yaykoapaske monrayke ka somo ki pa.

⁵⁶ 位の重いカムイとしての対面を損なうような軽々しいふるまいはしない、ということか。

⁵⁷ wayashnu の書き間違いではないか（直前に同じ単語を使っていて文脈上も適合する）。

- 戸を閉めてとじこもり、働くこともしない。
- 29707 newaanpe kotan kar kamuy sino emina rusuy.
それを村造りのカムイはとてもおかしく思い、
- 29708 tanpe kusu naa naa aynu ramkar⁵⁸ ruwe ne awa,
なので、さらにまた人間をからかっていたのですが、
- 29709 sino wayasnu kur e=ne kusu, tapne tapne e=yaynu wa neno e=iki wa,
あなたはとても利口な者であるので、これこのように考えて行動して、
- 29710 pase kamuy kor pe e=uk ruwe ne awan.
位の重いカムイの持ち物(位の高い宝物)を手に入れたのです。
- 29711 kotan kar kamuy sino erayap.
村造りのカムイもとても感心しています。
- 29712 aynu ari a=porse p nep ka ponno ka nupur ka somo ki pa p ne awa,
人間と呼ばれるものは、まったく少しも巫力が強くもないものでしたが、
- 29713 kamuy akkari wayasnu siri sonno erayap ruwe ne.
カムイよりも利口な様子に[村造りのカムイは]本当に感心しているのです。
- 29714 tanpe kusu tan te wano tapan kamuy kor pe ikor sokkar ne⁵⁹ e=kor wa,
なので、これからは、この宝物を、最も尊い宝物としてあなたが持っていれば、
- 29715 neyta pakno ne yakka e=sermakoma
いつまでも[その煙草入れが⁶⁰]あなたの背後を守り、
- 29716 nep ka marapto hene e=kar h_i ta sanke⁶¹ wa
何かあなたが宴会をひらく際に[その煙草入れを]出せば、
- 29717 tu pa re pa e=ku.
2服、3服とあなたは[煙草を]飲み続けることができます。
- 29718 kimun kamuy utar hene sinomiyar h_i ta
熊たちであっても、人間に祭られるところへ
- 29719 sanke wa e=eokanukar⁶² yak anakne
[その煙草入れを]あなたが出して、それで送り儀礼をすれば、
- 29720 kamuy utar ramma kamuykorpe nukar_rusuy kusu
カムイたちはいつも宝物を見たがるので、
- 29721 ukaun ukaun e=or_ta sinomiyar⁶³ ko anakne
こぞってあなたのところで自分を祭ってもらおうと、

⁵⁸ ramkar (ramukara) : 嘲弄スル、困ラセル、ジラス v.t. to poke fun at, to make angry, to tease, to annoy, to make cry 【バチラー辞典】 p.410。

⁵⁹ ikor sokkar ne : 宝物の最も尊いものとして【神謡集辞典】 p.390。

⁶⁰ ここで主人公を守護してくれるカムイが、村造りのカムイなのか煙草入れなのかという問いがあるが、ここでは前後の文脈で煙草入れが前景化することから、煙草入れの方ではないかと考えた。この後の 299 ページも参照。

⁶¹ この箇所と、直後に続くもう一カ所で sanke が人称接辞を付けずに用いられているが、この場合はそれぞれの接続助詞 wa の後ろの動詞と同様に主語は「あなたが」ではないかと考えられる。このような場所で人称接辞が他の話でも落ち易くなるかどうかは不明。

⁶² okanukar : 八雲 見送る【方言辞典】 p.71。

⁶³ sinomiyar (shi-nomi-yar) : 自分ヲ祭ラス、神ガ人間ニ祭ツテ貰フ【久保寺辞典稿】 p.95。

p.298

【原文翻刻】

336 anakne kamui chihoki boron / 337 no Ekor wa tonoko uimam Eki / 338 wa nea yakne moshittui kata / 339 Isam sonno Nishpa Ene kamui / 340 turanno utat turanno Echi Ibe- / 341 nowa neita bakno neyakka ema / 342 uko pirika kusu ne ruwe ta / 343 ban ari itak bekor yainu anko / 344 yaishikarun an wentarap an / 345 humi ne awan Eashka iyokunu / 346 re An tuwan onkami Aki ka / 347 ne nani Akor katkemat ako- / 348 orshutke wa boro sake Akar wa / 349 Autari utar obittano Atak tap / 350 orowa nea kamui korobe Asan- / 351 keko chise upsoro kamui nube- / 352 ki emakkosampa shiri shikaye / 353 kaye Autari obittano Akor katke- / 354 mat hene shino ukohomatpa wa / 355 oribakpa yakka rui shik tokoko / 356 kane inkar orowano kamui korobe / 357 kani ochike otta Aante kane hoka / 358 etokne Aeante tap orowa Aki cha- / 359 ranke kakkok haune ouse turse / 360 wayashnu kuru Ane kusu usa / 361 bishkani koinne Aomommomo / 362 kane taban kamui korobe eneene / 363 Ikkewe an kuni Aye chiki Inne / 364 utara Ikkeunoshki komkosam- / 365 pa shikkan komomsepa kor tu / 366 wan onkami rewan onkami uka- / 367 kushpare eashka uko Iyokunrepa⁶⁴ /

【現代表記・日本語訳】

- 29801 kamuy chihoki poronno e=kor wa
熊の毛皮もたくさんあなたは手に入れて、
- 29802 tono kouymam e=ki wa ne a yakne mosir_ tuyka ta isam sonno nispa e=ne.
和人との交易をしたら、国の上にないくらいの本当の長者になれます。
- 29803 kamuy turanno utar_ turannno eci=ipeno wa
あなたはカムイたちと、同胞たちと、よい食事をして、
- 29804 neyta pakno ne yakka e=mawkopirka kusu ne ruwe tapan” ari
いつまでも運の向きが良いでしょうよ」と
- 29805 itak pekor yaynu=an ko yaysikarun=an.
[チセコロカムイが] 言うように [私は] 思うと、目が覚める。
- 29806 wentarap=an humi ne awan.
私は夢を見ていたのであった。
- 29807 easka iyokunure=an tuwan onkami a=ki kane
私はとてもびっくりして、二十の拝礼（、三十の拝礼）をして、
- 29808 nani a=kor katkemat a=koorsutke wa
すぐに私の妻を励まして、
- 29809 poro sake a=kar wa a=utari utar opittano a=tak.
たくさんの酒を造り、私の同胞たちを皆招待する。
- 29810 tap orowa nea kamuykorpe a=sanke ko
そうして、その宝物を私は出すと、
- 29811 cise upsoro kamuy nupeki emakkosampa siri sikayekaye.
家の中が神光でパッと明るくなる様子は、光が辺りに何度も反射している。
- 29812 a=utari opittano a=kor katkemat hene sino ukohomatpa wa oripak pa yakka

⁶⁴ この話での他の箇所の用例からしても iyokunure pa で u が抜け落ちたのではないかと考えられる。

- 私の同胞たちは皆、私の妻も、本当にたまげて、かしこまりはするけれども、
- 29813 ruy siktokoko kane inkar.
眼を大きく見開いて眺める。
- 29814 orowano kamuykorpe kani ocike or_ ta a=ante kane hokaetok ne⁶⁵ a=eante.
そうして、宝物を金の折敷に私は置いて、炉の上座に置く。
- 29815 tap orowa a=ki caranke
すると、私は、自分がする談判(チャランケ)は
- 29816 kakkok haw ne owse turse wayasnu kur a=ne kusu
カッコウの声のごとくまっすぐ落ちるほどほどの賢い(雄弁な)者であるので、
- 29817 usa piskani koinne⁶⁶ a=omommomo kane
いろいろと周りに向かって私は詳しく述べて、
- 29818 tapan kamuykorpe ene ene ikkewe an kuni a=ye ciki
この宝物はかくかくの理由があるのだと私が言うと、
- 29819 inne utar ikkew noski komkosampa sikkan komomse⁶⁷ pa kor
大勢の人が腰をかがめておじぎをし、目の上をしかめて、
- 29820 tu wan onkami re wan onkami ukakuspare easka ukoiyokunure pa
二十の拝礼(オンカミ)、三十の拝礼を重ねて、とても皆で驚き、

p.299

【原文翻刻】

368 sonno wen wayasapbe utar / 369 Anepa kusu base kamui Ikaashnu / 370 kar kusu ene hawashi nerok okai / 371ko Aeshiwente kusu ouse Ishitoma / 372 batek Aeyaikoshiramse kusu kamui / 373 shikoirushkare Akishiri okai yakka / 374 Aokai utar Aikashnukar kasuno / 375 Ahekote Nishpa Aekashnukari iyotta / 376 pirika ruwe ne ari ukonubetnepa / 377 Akoro katkemat neyakka eashka / 378 shino nubetne wa Ikobuntek oro / 379 wano base kamuui yepkorachi son / 380 no mauko pirika An keshpa / 381 boronno Ison An base kamui korbe / 382 Aeikanukar kane kamui chiho- / 383 ki kamui tono moshiri Aeu / 384 mam usa okai Aep hene nep / 385 ne yakka pirikap batek boronno / 386 Aechip shirke yapte Akor katkemat / 387 hene Autari utar turanno sonno / 388 uwe nubetne An uwe Ibeno an / 389 tane anak ne tupo repo Auko / 390 sapte Autari utar hene obitta / 391 no Ayaiko omap Aomumbeka / 392 rebapne kusu Autari utar Itasa / 393 bakno eashka Iainu kor An huk- (?) / 394 ki koikip kamui shisakbe yuk / 395 shisakbe iyotta pirika I iyotta / 396 kera pirika I ochike ari kotan / 397 koro Nishpa kotan kor katke- / 398 mat Aerep ari hawokai koro / 399 burai kari aba kari Ikoiyampa /

【現代表記・日本語訳】

⁶⁵ 金成マツ氏は他でも hoka etoke ne ehorari などの表現を【ユーカラ集】で複数回使っており、【知里幸恵ウエペケレ】においても hoka etok ne a=ehorari (p.34) および、hoka etok ne a=an (p.62) がそれぞれ見られ、そういう形となっているようである。【神謡聖伝】の神謡 60 には ape etok ne h_i koysankokka esitciwre (横座に膝を揃えて座る) という表現が見られ、この hi の落ちた形であると考えられるか。(この注の最後の点は中川裕先生の指摘による)

⁶⁶ usa piskani koinne : いろいろと周りに向かって【ユーカラ集1】p.53。

⁶⁷ komomse : うねうね波状を成す【ユーカラ集3】p.123。

- 29901 “sonno wen wayasap⁶⁸ pe utar a=ne pa kusu
「私たちはとてもとても愚か（口下手）なので、
- 29902 pase kamuy i=kasnukar kusu ene hawas h_i ne rokokay ko
位の重いカムイが私たちの背後を守ってくれようとそうように話したのですが、
- 29903 a=esiwente kusu ouse isitoma patek a=eyaykosiramse kusu
私たちはのろまなので、ただ恐ろしいとばかり考えていたので、
- 29904 kamuy sikoiruskare a=ki siri okay yakka
カムイを怒らせたようですが、
- 29905 aokay utar a=i=kasnukar⁶⁹ kasuno
私たちには、私たちが守られるよりも、
- 29906 a=hekote nispa a=e=kasnukar h_i iyotta pirka ruwe ne”
私たちが大事にする長者様が守られることの方が、より良いことですよ」
- 29907 ari ukonupetne pa. a=kor katkemat ne yakka easka sino nupetne wa i=kopuntek.
と互いに喜び合う。私の妻も本当に嬉しく思っ、私のことを喜んでくれる。
- 29908 orowano pase kamuy ye p koraci sonno mawkopirka=an.
そうして、位の重いカムイが言うように、とても私の運がよくなり、
- 29909 kespa poronno ison=an.
毎年たくさんの獲物を手に入れる。
- 29910 pase kamuy kor pe a=eikanukar kane
位の重いカムイの持ち物（位の高い宝）を私は守護神として持って、
- 29911 kamuy cihoki kamuy tonosiri a=euymam
熊の毛皮でもって和人の殿の国で交易をして、
- 29912 usa okay aep hene nep ne yakka pirka p patek poronno a=ecipsikeyapte⁷⁰.
いろいろな食べ物や何であれ良いものばかりをたくさん荷揚げする。
- 29913 a=kor katkemat hene a=utari utar turanno sonno uenupetne=an ueipeno=an.
私の妻も私の同胞たちも一緒に、とても喜びあい、皆でたらふく食べる。
- 29914 tane anakne tu po re po a=ukosapte
今や二人の息子、三人の息子（たくさん子ども）を私たちはもうけ、
- 29915 a=utari utar hene opittano a=yaykoomap a=omumpekare⁷¹ pa p ne kusu
私の同胞たちのことも皆を私はかわいがり、世話をするので、
- 29916 a=utari utar itasa pakno⁷² easka i=aynukor=an
私の同胞たちもお返しにととても私のことを敬ってくれる。
- 29917 hukki(?)⁷³ koyki p kamuy sisakpe yuk sisakpe iyotta pirka h_i

⁶⁸ この単語についても【沙流方言辞典】のみが「口べたである」と訳し (p.825)、その他の辞書は「愚かだ」「馬鹿だ」という訳を当てている。

⁶⁹ kanukar と kasinukar は同じものと考えられ (【千歳方言辞典】 p.143)、そこに i が付くことで自動詞になり、接頭辞の e- が付くことで 2 項動詞となる。ikanukar で「守護となる」、eikanukar で「～でもって守護となる」ということになるか。

⁷⁰ yapte (他動詞) が cipsike をとったところで自動詞になり (「荷揚げする」)、接頭辞 e- をとることで再び他動詞になる。

⁷¹ omumpekare 「世話をする」【ユーカラ集 3】 p.28)

⁷² itasa pakno : 返礼に【久保寺辞典稿】 p.125)

⁷³ 意味不詳。30001 行目と対句になっているとすれば、hoski (hoshki) を行をまたいだために

最初に(?)狩りで手に入れるもの、熊の極上のもの、鹿の極上のもの、最も良いもの、

29918 iyotta kerapirka h_i ocike ari

最も美味しいものを折敷に載せて、

29919 “kotan kor nispa kotan kor katkemat a=ere p”

「村長の旦那、村長さんの奥さんへ、私たちが差し上げる食べ物ですよ」

29920 ari hawokay kor puray kari apa kari i=koianpa=an⁷⁴.

といいながら、窓から戸口から届けてくれる。

p.300

【原文翻刻】

400 An neino korachi menoko / 401 utar hoshki uina toi harune / 402 chiki kimun kina ratashkep / 403 hene sonno pirika i ochike ari / 404 burai kari aba kari kotan koro / 405 Nishpa kotan koro katkemat / 406 Ep ari Ahawe okai kane Ahupte / 407 umurek Anewa sonno Aenubet / 408 ne Apo utari hoshki tukbap / 409 obittano okkayo ki kushne mon / 410 raike nepne yakka Aebakashnu / 411 Neino sui Akor katkemat Amat / 412 nepo utari menoko kipa kusu / 413 okai nepnep monraike obittano / 414 Ebakashnupa Apo utari Amatnepo / 415 utari obittano sonno umurek / 416 Ane shiretokkoro ampa ruwe / 417 neino korachi shiretok hene yu- / 418 ptek hene kipa tane matkorpa / 419 hokukorpa Aeramushinne / 420 tane umurek Anewa kema / 421 base an Apo utari Ihorka re- / 422 shpa eashka Inunuke ampa / 423 Neita bakno neyakka taban / 424 base kamui korbe Ainu korwa / 425 tusan tek kata resantek kata / 426 Aukeshkor kunip nei Aebash / 427 kuma koro kamui onne pirika / 428 onne Aki kushtap Aye hawene / 429 ari urashbetun shino Nishpa itak /

430 昭和九年五月八日 金成マツ記

【表記変更】

30001 neno koraci menoko utar hoski uyna toy haru ne ciki kimun kina rataskep⁷⁵ hene
そのように、女性たちは最初に採れた畑の作物であれ、山の山菜であれ、

30002 sonno pirka h_i ocike ari puray kari apa kari

とても美味しいところを、盆に載せて、窓から戸口から、

30003 “kotan kor nispa kotan kor katkemat e p”

「村長の旦那さんと村長の奥さんがお食べになるもの」

30004 ari (a)⁷⁶ haweokay kane ahupte.

書き間違えた可能性があるだろうか？

⁷⁴ iyani: 食べ物を食べさせたくて持って行く【沙流方言辞典】p.256) ; 他人のところへ食べ物をもつて行ってやる【久保寺辞典稿】p.127)

⁷⁵ どうも文脈と対句表現の構成からして、ここでの rataskep は混ぜ煮料理を指すのではなく「山菜」の方の意味で使われているようである。

⁷⁶ なぜここに a が入るのが不明。a=hawe okay という形を文法的に想定できるが、他に用例が見当たらない。haweokay で3人称であると考えた方が自然であろう。後ろの部分との対応をみると、最初は ahupte と書こうとして書き始め、途中で考えを変えてそのまま haweokay にして書き続けた可能性があるだろうか。

- と云って、中に差し入れてくれる。
- 30005 umurek a=ne wa sonno a=enupetne
私たち夫婦でとても喜んで、
- 30006 a=poutari hoski tukpa p
私の息子たちには、先に成長した者には皆、
- 30007 opittano okayo ki kus ne monrayke nep ne yakka a=epakasnu.
男がするような仕事は何であれ私が教える。
- 30008 neno suy a=kor kakemat a=matnepo utari
同じようにまた、妻は娘たちに、
- 30009 menoko ki pa kusu okay nepnep monrayke opittano epakasnu pa.
女がするような様々な仕事を全て教える。
- 30010 a=poutari a=matnepoutari opittano sonno umurek a=ne
息子たちも娘たちも皆、私たちは夫婦で
- 30011 siretokkor=an pa ruwe neno koraci siretok hene yuptek hene ki pa
とても容貌が良いが、それと同じように容貌も良く、働き者でもあって、
- 30012 tane matkor pa hokukor pa a=eramusinne.
今では嫁をもらい夫をもらい、私は安心に思う。
- 30013 tane umurek a=ne wa kemapase=an
今では私たち夫婦で歳を取って身体が不自由になり、
- 30014 a=poutari i=horkarespa easka i=nunuke=an pa.
私の息子たちが逆に私たちの世話をして、私たちに憐れんでくれる。
- 30015 neyta pakno ne yakka tapan pase kamuy kor pe aynu kor wa
いつまでも、この位の重いカムイの持ち物（宝物）を人間が所有して、
- 30016 tu santek ka ta re santek ka ta a=ukeskor kuni p ne h_i
二代先の子孫、三代先の子孫へと受け継いでいくべきものであることを、
- 30017 a=epaskuma kor kamuy onne pirka onne a=ki kus tap a=ye hawe ne
私は伝えおき、天寿を全うし、大往生するところなので、これを言い遺すのだよ、
- 30018 ari Uraspets un sino nispa itak.
とウラシペツの本物の長者が話す。

参考文献

略記した資料

【虎杖丸別伝】金成マツ、金田一京助訳注（1993[XXXX]）「虎杖丸別伝」『金田一京助全集 X』三省堂、pp.432-95.

【萱野辞典】

【神謡聖伝】久保寺逸彦（1977）『アイヌ叙事詩——神謡・聖伝の研究』岩波書店.

【神謡集辞典】切替英雄（2003[1989]）『アイヌ神謡集辞典』大学書林.

【久保寺辞典稿】久保寺逸彦（2020[1992]）『アイヌ語・日本語辞典稿』草風館.

【沙流方言辞典】田村すず子（1996）『アイヌ語沙流方言辞典』草風館.

【千歳方言辞典】中川裕（1995）『アイヌ語千歳方言辞典』草風館.

【知里真志保フィールド】北海道教育庁生涯学習部文化課編（2004～）『知里真志保フィールドノート』北海道教育委員会。

【知里幸恵ウエペケレ】知里幸恵、北道邦彦（2004）『知里幸恵のウエペケレ』北海道出版企画センター。

【バチラー辞典】ジョン・バチラー（1938）『アイヌ・英・和辞典』第4版、岩波書店。

【人喰い鬼】：金成アシリロ（金成マツ筆録、蓮池悦子訳注）（1998）「私の姉はウエクル（人喰い鬼）を夫にした」『トゥイタク（昔語り）2』平成10年度アイヌ無形民俗文化財記録刊行シリーズ11、北海道教育委員会。

【人間篇】知里真志保（1975[1954]）『分類アイヌ語辞典——人間篇』『知里真志保著作集——別巻2』平凡社。

【ユーカラ集】金成マツ筆録・金田一京助訳注（1959～1968）『アイヌ叙事詩——ユーカラ集』三省堂。

デジタル・アーカイブ資料

織田ステノ（1980）「パナウンペとハルニレの木」アイヌ民族博物館アイヌ語アーカイブ、C0023。

織田ステノ（1981）「パナウンペとハルニレの木」アイヌ民族博物館アイヌ語アーカイブ、C0034。

大谷洋一（2016）「アイヌ口承文芸「散文説話」——河童に助けられた男の物語」『北海道博物館アイヌ民族文化研究センター紀要』第1号、pp.57-77。

萱野茂（2020[1988]）『アイヌと神々の物語——炉端で聞いたウエペケレ』山と溪谷社（ヤマケイ文庫）。

萱野茂（1998[1977]）『炎の馬——アイヌ民話集』すずさわ書店。

金田一京助（1957）「アイヌの昔話二篇——知里幸恵集拾遺」『民族学研究』第21巻第3号、pp.28-37。

白老楽しく・やさしいアイヌ語教室編（2020）『金成マツ筆録、盤木アシンナン口述ウエペケレ8話の研究』白老楽しく・やさしいアイヌ語教室。

白老楽しく・やさしいアイヌ語教室編（2017）『金成アシリロ口述ウエペケレ10話の研究』白老楽しく・やさしいアイヌ語教室。

白老楽しく・やさしいアイヌ語教室編（2009）『金成マツ筆録ユーカラ既刊20編の研究と分析』白老楽しく・やさしいアイヌ語教室。

蓮池悦子（1997）「伝承と伝承者——金成マツ」『岩波講座日本文学史第十七巻——口承文学二、アイヌ文学』岩波書店、pp.265-284。

藤田護（2018）「金成マツ筆録ノートの口承文学テキストの原文対訳及び解釈——散文説話「六人の山子(iwan yamanko)」」『千葉大学大学院人文公共学府研究プロジェクト報告書』第325巻、pp.25-65。

北海道教育委員会（2005）『知里真志保フィールドノート（4）』北海道教育委員会。

（ふじた まもる／アンデスオーラルヒストリー工房（Taller de Historia Oral Andina）、
慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス環境情報学部）